

# 課題曲の中の課題 2011

## 櫛田 朕之扶

課題曲の提出の仕方が、ほぼ定着したと見れば良いのでしょうか。今年も、マーチが2曲とマーチ以外の曲が3曲、全日本吹奏楽コンクールの課題曲になりました。

まず、2曲のマーチですが、昨年と同じように、違ったスタイルの2曲が提出されました。

4分の2で書かれた『マーチ「ライヴリー アヴェニュー」』は、動機の執拗な繰り返しや歯切れの良いリズム設定から言って、「行進曲」という形式を確保した、行進曲らしい行進曲です。内容は、表題のように、爽快な・洒落た・ジャズっぽいコード設定から、ジャズやポピュラー・ミュージック的なコード進行の設定になっていて、1950・60年代のミュージカルの幕開けを楽しんでいるような曲となっています。

もう一方の『南風のマーチ』は、もうこの言葉を何回も使ってきましたが、いわゆる課題曲マーチです。テンポやリズムは行進曲として設定されていますが、内容的には歩くマーチというよりはコンサート・マーチでしょう。一種のムード音楽か、ポピュラー音楽と考えれば良いと思います。内容は、「春が来た」という季節や自然に対する気持ちを描いたもので、これもいつも言っていますように日記のような「私音楽」です。

マーチ以外の曲では、性格・形式・手法の全く違った3つの作品が取り上げられています。

『天国の島』は、日本人的な感性が、脱都会的な方向から描かれた作品です。伝統的な日本音階を上手く組み立てた部分と、西欧音楽的に処理した部分とで、作曲されています。総じて日本音楽です。

『シャコンヌ S』は、「シャコンヌ」という古典的な形式に、和声の組み立て方や、テンションを加える、といった方法を用いて現代的色彩をほどこした作品です。プロの作曲家の手によるもので、必要十分条件の備わった、隙がない曲となっています。音楽の基礎をしっかり学習するための、良い教材でもあります。

『「薔薇戦争」より戦場にて』は、シェークスピアの戯曲からインスピレーションされた曲、との解説が作曲者によって書かれています。戯曲の付帯音楽でもないようですので、色々な場面・登場人物・葛藤などを、演奏する側も自由にイメージすれば良いと思います。ただ、あの「薔薇戦争」のドロドロとした人間模様や複雑なストーリーのどこを捉え、描けば良いのか、また、戦場といってもどの場面なのかをイメージするのは、大変苦労します。これだけの長さの曲において、壮大なドラマを皆さんの表現力で…と言われても、それはちょっとゴメンナサイと言ってしまいたくなります。この曲は、「薔薇戦争」という大きな組曲があって、その中の「戦場」ということでしょうか。私なりに、は、「小規模の交響詩」と捉えることはできますが。

## IV 南風のマーチ／渡口公康

「春の訪れを告げる風」というイメージで、春を迎える色々な情感を持って、作曲されたようです。季節・自然とともに生きるという、日本人の持つ季節・自然に対する情感を描くという感性を、この曲の作曲者のような若い方々がしっかりと持っておられることに、嬉しくなってきます。題名は、英訳の「Spring Breath」の方が良いですね。「南風」（季語としては《夏》です）、と言ったばかりに、イメージが遠廻りします。「春風に乗って」で良かったと思いますが、いずれにしても、この曲のキーワードは「春風」です。

曲のスタイルとしては、行進するという本来のマーチではなく、課題曲マーチと呼んでいるコンサート・スタイルのマーチです。ですから、行進曲という形式にとらわれることなく、普通に表現すれば良いと思います。内容はそう考え込むこともないでしょうし、フレーズやコード進行（セカンダリー・7th、two-five を使った、pops 感覚のコード設定）は、ともにオーソドックスですし、とくに個性的であるということはありません。ただ美しく、優しいし、暖かです。気持ち良く、音楽的な基礎の勉強ができますね。ビート中心の音楽や、わけのわからない響きだけの音楽が氾濫するなかで、この音楽は貴重です。演奏する側から言えば、何か個性・キャラクターを注入できないものか、みたいなことは湧いてきます。

### 〈イントロダクション〉【A】

主調である変ロ長調のドミナント・フレーズを使っています。Trumpet・Trombone セクションはトップノートをしっかり捉えた形のコードを、木管群の駆け上がりは、拍の最初の音がコード音ですから、フレーズを大きく取ります。4 小節目のアーティキュレーションは徹底しましょう。



### 〈A〉【A】

4 小節の対話になっています。最初の 4 小節は、作曲者のいう「春の訪れを告げる風」でしょうか。4 小節目の 3 拍目まで大きくフレーズをとって、風の姿を表現しましょう。4 小節目の 4 拍目からは、その春風へのちょっとした思い・気持ち・語りかけでしょうか。

〈A'〉【B】

もう一度風が吹いてきます。鳥や花、陽の光、季節を運んで来ます。カウンター・メロディは何をイメージしましょうか。

Musical score for section A' [B]. It consists of two staves of music in bass clef. The first staff begins with a dynamic marking of *f* and contains a series of eighth and sixteenth notes with slurs. The second staff continues the melodic line with similar rhythmic patterns and a final measure ending with a quarter rest.

〈B〉【C】

サビの部分ですね。春という全てが新しくなった季節、自然・生き物・人々は、何かしら力強く歩み始めます。旋律ラインのマルカート（アクセント）は、スタッカートにならないように、4分音符はしっかり音を保ちましょう。躍動感を持って、力強いブラスのノリを発揮します。

後半の4小節は、頬を撫でる春風の優しさを感じます。フレーズを豊かにふくらませて、スタッカートは、柔らかくとりましょう。

Musical score for section B [C]. It features two staves. The top staff is in bass clef and includes a box labeled 'C' above the first measure. Chord symbols *Gm*, *Dm*, *E<sup>b</sup>*, and *B<sup>b</sup>* are placed above the staff. The bottom staff is in treble clef and includes chord symbols *Cm7*, *F*, *D7*, *Gm*, *C7*, and *F7*. Dynamic markings *ff*, *mp*, and *mf* are present throughout the score.

〈A''〉【D】

春を迎えました。全ての人々が、季節・自然の喜びを感じています。あくまでも、豊かな・暖かな・恵みを感じた表現であって欲しいです。活動的・活発な表現も良いのですが、決して力んだりしてはいけません。

〈第1 Trio〉【E】【F】【G】

形式通り完全4度転調して、Trioに入ります。前半のマーチの主題と同じような、リズム動機を持った旋律ラインです。この形は、次の第2 Trioでも引き継がれ、最後まで続きます。

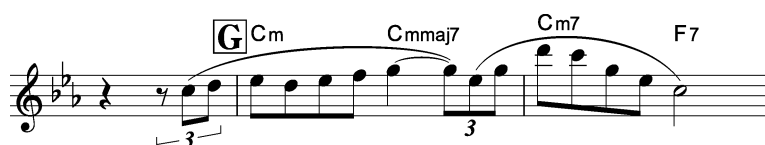
Musical score for the first Trio section. It consists of three staves. The top staff is labeled '第1 Trio' and contains a melodic line. The middle staff is labeled 'マーチ主題' and contains a rhythmic accompaniment. The bottom staff is labeled '第2 Trio' and contains a melodic line. The music is in a key with two flats and a 4/4 time signature.

この部分全体では、アーティキュレーション・スラーをフレージング・スラーと間違わないようにして下さい。

【F】からは、修飾・カウンター気味に、Glockenspiel・Trumpet (con sord.) が入ってきます。お馴染みのスタイルですが、アクセサリはキラッと美しくないといけません。



【G】では、少しマーチとしては異質かも知れませんが（もともとそんなにマーチと考えていませんから大丈夫）、Flute のオシャレな挿入句がわざとらしく、フッフツという感じで、面白いですね。



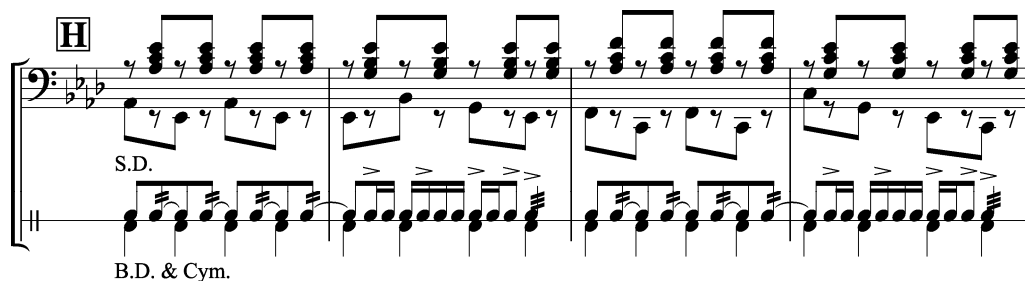
再び完全4度転調して、第2 Trio に入ります。

〈第2 Trio〉【H】【I】

主旋律は、前半のマーチ主題からずっと続くリズム動機をもとにした主題です。全合奏ですので、各部分の表現（4小節ごと）・セクション・パートを、イメージをより鮮明にし、バランス・強弱を充分に考えて表現しないと、全く単調に聞こえてしまいます。Trombone セクションのカウンター表現は、アーティキュレーションと共に、この部分の大きい課題です。



打楽器群・Horn・Bass のリズム（足音・鼓動…）も力強く、鮮明に聞こえて来なければなりません。



〈コーダ〉【J】【K】

主題のリズム動機とイントロダクションが重ねられて、爽やかに・気持ち良く・何へのこだわりもなく、終わります。

---

2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲分析

## 課題曲の中の課題 2011

監修・著作：櫛田 肤之扶

編集・制作：株式会社ウィンズスコア

配布・公開日：2011 年 5 月 31 日

楽譜引用元：

堀田庸元・佐藤博昭・新実徳英・渡口公康・山口哲人

『2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』全日本吹奏楽連盟、2011 年 2 月 1 日発行

※本書の著作権保有者は、著作者である 櫛田 肤之扶 であり、櫛田 肤之扶 の協力・許諾のもと、  
(株) ウィンズスコアが本書を制作・公開しております。

※本書に掲載されている楽譜の一部は、『2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』からの引用  
であり、全日本吹奏楽コンクール課題曲の権利は、(社) 全日本吹奏楽連盟に帰属します。

※本書の配布・コピー等の利用については、本書の内容・目的を理解した上で、金銭の受け渡し  
が発生しない場合に限り許可いたします。

※本書を使用するの、第三者との紛争・トラブルが発生した場合、著作者・制作者、及び (社)  
全日本吹奏楽連盟は一切責任を負いません。